

船舶事故等調査報告書

平成24年6月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012横第21号	
事故等種類	座洲	
発生日時	平成24年2月13日（月） 13時10分ごろ	
発生場所	愛知県名古屋港内第1貯木場南方の筏川河口付近 愛知県弥富市所在の名古屋港西航路第9号灯標から真方位357° 1.6海里付近 （概位 北緯35° 02.9′ 東経136° 48.4′）	
事故等調査の経過	平成24年2月14日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	船種船名、総トン数 船種船名、総トン数 船種船名、総トン数	
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定	
死傷者等	なし	
損傷	なし	
事故等の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、船首尾喫水約30～40cmで筏川河口付近を約2～3ノットの対水速力で手動操舵により、筏川の係留地に向けて北進中、平成24年2月13日13時10分ごろ潜堤に船底が乗り揚げた。 船長は、本インシデント発生場所を航行するのが初めてであったが、事前に航路の調査を行っておらず、潜堤が設置されていることを知らなかった。 本船は、満潮を待って19時ごろ自力で離礁し、航海を再開した。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北西、風力 3、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の後期、潮高 約93cm	
その他の事項	船長は、本船を中古で購入し、係留地に向けて回航中であり、本船の操船は本インシデント当日が初めてであった。 筏川河口には、コンクリート製の潜堤が設置されており、潜堤の位置を明示する黄色灯浮標が設置され、潜堤に沿って杭が打ち込まれていた。 本インシデント発生場所は、杭と杭との間が他の場所より広がった。 潜堤の上部は、本インシデント発生当時、海面下約20～30cmであった。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、筏川河口付近を北進中、船長が事前に航路の調査を行っていなかったことから、潜堤に向けて航行し、同潜堤に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本インシデントは、本船が、筏川河口付近を北進中、船長が事前に航路	

	の調査を行っていなかったため、潜堤に向けて航行し、同潜堤に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
--	--